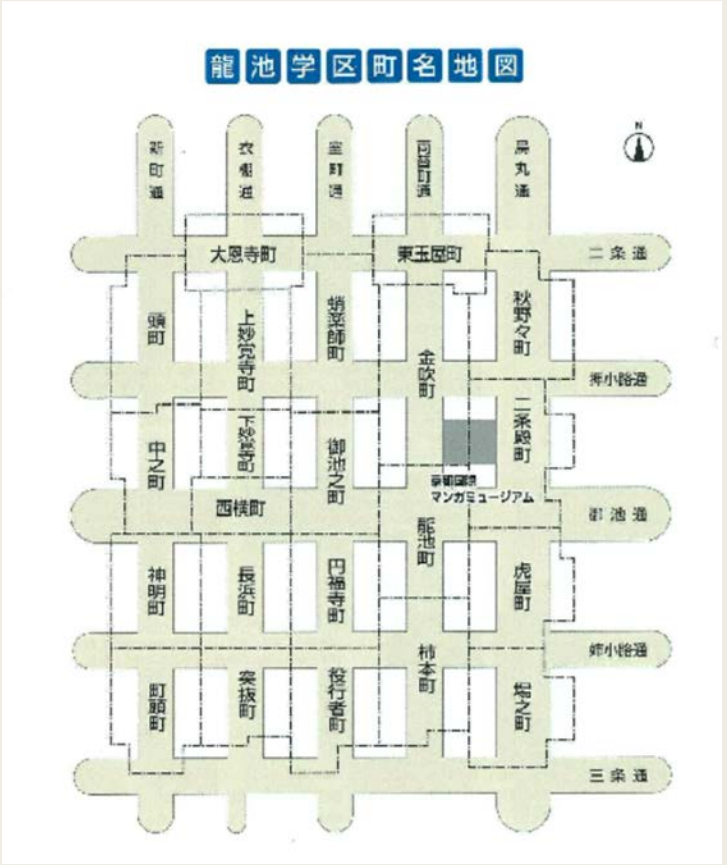
2019年度
京のまちなか
「龍池学区」活動報告

はじめに

龍池自治連合会の「地域で活動する団体」の一つ「町つくり委員会」では、より良い地域づくりに向け活動しています。

龍池学区は、京都市中京区の北は二条通、南は三条通、東は烏丸通、西は新町通に囲まれた地域を指します。この「学区」という呼称は、旧・龍池小学校の校区のことを指しています。昔は呉服商や薬種業が盛んな地域でした。



龍池小学校について

龍池小学校は、明治2年（1869年）、町の区分をもとに創設した64の「番組小学校」の一つ、上京第二十五番組小学校として開校しました。

昭和12年（1937年）、都市化による影響を憂慮し、大自然の中での体験を通じた健全育成等の場として「郊外学舎」を設立しました。

その後、人口のドーナツ化や少子化などの影響で平成7年（1995年）に閉校しました。現在は京都国際マンガミュージアムとして利用されています。

2019年度活動紹介

①龍池町つくり委員会

②龍池町つくり委員会　活動参加

１　お花見と野点　２　たついけ浴衣まつり　３　大原茶会

③京都外大提携プログラム

地域活性化事業「ぶらりまちなかスタンプラリー」

１　企画・立案　２　実施　３　成果

④今後の取り組み

１　郊外学舎について　２　郊外学舎の活用

①龍池町つくり委員会

龍池町つくり委員会は、地域の安全や安心を願い、住民が快適に暮らせるような地域自治活動をしています。龍池学区ではこの十数年で世帯数が倍増し、会社やマンション、居住者の構成が変化すると同時に住民の高齢化が問題となっています。

毎月第一火曜日に行う会議では、地域内の問題についての議論をはじめ、地域活動の企画・立案などを行っています。



委員会メンバー(一部)

②龍池町つくり委員会　活動参加

1　お花見と野点

旧・龍池小学校のグラウンドにある桜の木の下で野点をしました。野点とは、野外でお茶を点てて楽しむ茶会のことです。





②龍池町つくり委員会　活動参加

２　たついけ浴衣まつり

祇園祭・山鉾の一つで龍池学区に所在する、「鷹山」の復興活動の一つとして、毎年開催されています。

祇園祭の宵山期間に合わせて開催され、参加者の多くは浴衣姿で京都の夜を味わいました。

今年は授与品販売のお手伝いをしました。





②龍池町つくり委員会　活動参加

3　大原茶会

龍池学区に住む人たちと、大原郊外学舎のグラウンドで野外ランチやグランドゴルフなどをしました。

当日は天候に恵まれ、紅葉した山々を見れました。



大原郊外学舎周辺の景色

③京都外大提携プログラム地域活性化事業「ぶらりまちなかスタンプラリー」

1　企画・立案

実施日：2019年11月17日(日)

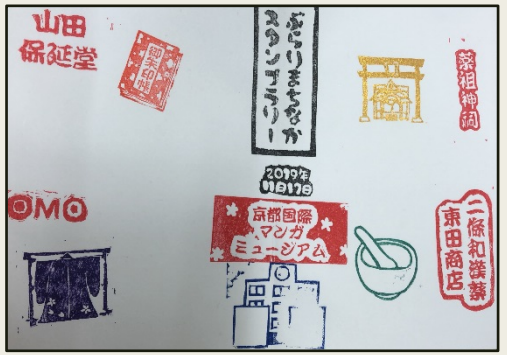
時間：13時～15時(12時半～受付)

場所：龍池自治会館内、京都市中京区龍池学区

対象：小学生

定員：先着30名

内容：スタンプラリー、クイズ、
　　薬草茶とわらびもちの試飲・試食、スライド発表



▲オリジナルスタンプ帳



▲スタンプラリーの地図

③京都外大提携プログラム地域活性化事業「ぶらりまちなかスタンプラリー」

1　企画・立案

夏の行事が終わったころに、スタンプラリーをすることに決めました。その後、日程や場所を決め、チラシやスタンプなどを作成しました。

2　実施

午前中にスタッフで打ち合わせをし、準備に取り掛かりました。午後に受付を開始し、スタンプラリー引率班とチェックポイント班に分かれ活動しました。

③京都外大提携プログラム地域活性化事業「ぶらりまちなかスタンプラリー」

2　実施

- スタンプラリー

  5チーム

  5カ所のチェックポイント

  クイズ

- 薬草茶(鳩麦茶ベース)

  ハイビスカス茶

  菊茶

- わらびもち

  料亭の本物のわらびもち

- スライド発表

  龍池学区とは

  委員会の活動紹介



▲スタンプラリーのようす



▲スライド発表のようす

③京都外大提携プログラム地域活性化事業「ぶらりまちなかスタンプラリー」

3　成果

参加者

- 小学生　30名
- 未就学児　5名
- 保護者　12名
- 外部見学者　5名

運営

- 委員会　7名
- 外大スタッフ　13名

アンケート結果

- 通学路で新しい発見ができた。
- 勉強になった。
- ハイビスカスのお茶がまずかった。



たくさんの子どもたちが参加しました！

③京都外大提携プログラム地域活性化事業「ぶらりまちなかスタンプラリー」

3　成果

良かった点

- 昨年より内容も充実し、参加者数もかなり増えた。
- 参加者から、通学路で新しい発見ができた、勉強になったという意見がもらえた。

改善点

- 外大スタッフをもっと募る。
- トイレ休憩の時間をつくる。
- チェックポイントの数や場所の調整。

④今後の取り組み

1　郊外学舎について

龍池小学校の児童が自然の中で学ぶ場所として、龍池教育会の援助のもと、昭和12年(1937年)に山科区東野に山科郊外学舎を創設しました。その後、山科郊外学舎周辺の都市化に伴い、昭和47年(1972年)に左京区大原に移転しました。



大原郊外学舎とグラウンド

④今後の取り組み

２　郊外学舎の活用

現在は公益財団法人龍池教育財団の管理の下、御所南小学校の児童たちの自然とのふれあいの場や、諸団体の野外活動の場として利用されています。しかしこのような利用は少なく、今後は学区住民や周辺住民が利用できる活用方法を考えています。



▲大原地域の住民とお花見



田植え体験をする御所南小学校の児童▶

まとめ

京のまちなか「龍池学区」は、着物や浴衣で参加できる「野点」や「たついけ浴衣まつり」、子どもと大人が一緒に地域の魅力を発見できる「ぶらりまちなかスタンプラリー」など、地域の特徴を生かした活動を数多く行いました。

このような活動を通して、地域活動の大切さや大変さを学ぶことができました。今後はもっと住民が参加しやすい活動や、大原郊外学舎の活用を考えていきたいです。

国際文化資料館　小川　夏子